

2025 年 6 月 3 日

メディア関係者・プラットフォーム事業者各位

2025 年 6 月 27 日(金) 13 時 30 分～14 時 45 分 オンライン開催
第8回 自殺報道のあり方を考える勉強会
～最新研究報告 国内の自殺報道の変化とウェルテル効果～

厚生労働大臣指定法人・一般社団法人 いのち支える自殺対策推進センター（東京都千代田区、代表理事・清水康之、略称「JSCP」）は 2025 年 6 月 27 日（金）、自殺報道に関する勉強会を開催致します。

近年、WHO 自殺報道ガイドライン（『[自殺予防を推進するためにメディア関係者に知ってもらいたい基礎知識](#)』）がメディア関係者の間に浸透しつつあり、自殺報道の質にも変化がみられています。JSCP では、過去約 15 年の間に国内の自殺報道（主に有名人の自殺に関する報道）がどのように変化し、それがウェルテル効果（自殺報道の影響で自殺者数が増える現象）の抑止と関係があるかどうかについて、独自の研究を進めてきました。今回は、その分析結果や考察について中間報告する予定です。

昨年度の勉強会では、自殺報道に関する基礎的な情報を凝縮してお伝えし、約 200 名の方々にご参加いただきました。今回も同様に、勉強会に初めて参加される方などに役立つ基礎知識もお伝えします。初参加の方も、過去にご参加いただいたことがある方も、ぜひご参加ください。

勉強会では、以下の内容についてお伝えする予定です

※プログラム等の詳細は、HP に随時掲載していきます

<https://jscp.or.jp/action/detail/benkyokai-8th-information.html>

- 日本の自殺の概況
- WHO 自殺報道ガイドライン 「すべきこと」「してはいけないこと」とは
- データで解説 近年の自殺報道の影響 ～国内で確認された「ウェルテル効果」について～
- メディアの自殺報道の変化と、ウェルテル効果 ～JSCP による最新の分析結果の報告～
- 近年の自殺報道から見える、新たな課題

本勉強会は、以下のような方々に特に適した内容です

- ✓ 自殺報道について、基礎から最新の動向まで短時間で知りたい
- ✓ 新人研修や部門研修の一環として／自殺報道への配慮が必要なポジションに新たに就いた
- ✓ 自殺報道に配慮すべき科学的根拠（エビデンス）が知りたい

- 日 時： 2025年 6 月 27 日（金） 13時30分～14時45分
- 対 象： メディア関係者、プラットフォーム事業者等
- 形 式： オンライン（Zoom ウェビナー）
- 参加費： 無料
- 申し込み： 下記 URL または右記 QR コードから

<https://forms.office.com/r/EmvEM2YKSr> （6 月 25 日（水）17 時締め切り）



一般社団法人 いのち支える自殺対策推進センター 広報室：山寺、伊江、三海、八木沼
press@jscp.or.jp / Tel. 03-6272-9446、070-8687-8666（山寺） / Fax. 03-6272-9447

過去の勉強会に、ご参加いただいた方々の声

全国紙・地方紙・キー局等、全国 181 社のメディア／プラットフォームら、計約 800 人が参加

- 報道に携わる者は知っておかなければ、考えなければならないことだと思った。(ラジオ局、部長)
- 特に自殺と報道に関する具体的研究実績が、説得力があり、今後の報道の上で大変参考になった。(テレビ局、報道部部長)
- 自殺報道が自殺念慮を持つ方々に影響を与えることを改めて確認できた。(新聞、デスク)
- 自殺報道を巡る最新の知見に触れることができた。(新聞、記者)
- 一般論としては、読者の知りたいことを伝えるのが報道だと思っているが、自殺報道の場合は「いつ、どこで、なぜ」という、一部読者が熱烈に知りたいことが「報じるべきでないこと」となると知った。編集局内で、勉強会の内容・認識を共有したい。(新聞、デスク)
- 記事を作成する上で参考になる点が多々あった。(雑誌、編集長)
- 自殺報道は神経を遣うことが多いが、連鎖を引き起こす可能性がある。今後は、そうした配慮にさらに意識的に取り組む必要があると改めて認識できた。(テレビ局、社長室)
- 紹介された事例やデータから、著名人の自殺報道が持つ「自殺を誘発する力」が、これまで考えていた以上に直接的かつ強力に働いていることが理解できた。(ネットメディア、副編集長)
- 初めて知る知識が多かったので、第一歩として勉強になった。(ラジオ・テレビ局、アナウンサー)
- ガイドラインを意識しながら、自主自律の放送としての使命とのはざまで、どうバランスをとっていかかが今後の課題だと感じた。(テレビ局、考査部長)
- 前回の勉強会で学んだことを復習、アップデートできた。(テレビ局、デスク)
- 自殺の手段・場所を報道すべきでない「なぜ」の部分、改めて確認できた。(ネットメディア、編集)

以上

【参考情報】

- ① 過去の「自殺報道のあり方を考える勉強会」の詳細レポートは、下記よりお読みいただけます。
<https://jscp.or.jp/training/detail/benkyoukai-matome.html>
- ② 担当職員による自殺報道に関するコラムを配信しています。
第1回：<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/1b70f6253b2efcd944dd12247eda5e668407197f>
第2回：<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/73229f73742142df1e5da773b3c60ec3de2acc98>